



アルツハイマー病の進行を遅らせる新薬は出回るのか。  
エーザイと米国バイオジエンは、共同開発の「レカネマブ」の最終治験で「有効性を確認」と発表した。今年度中にも日本で承認を申請する。

論

說

# 宮武 剛

神経細胞を壊す「アミドロイド」（ベーター）を除去する。

認されたものの、進行抑制効果への疑問や高価格（体重74kgの男性で年間約80

組合連合会（約1400組合、2900万人）の2021年度高額レセプトの

価格も含め審査は厳格になる。承認後も有効・安全だ。

と比べ、レカネマブ投与側で症状の悪化が「27%抑制」された。脳の浮腫等の副作用も一部生じたが、「制御する。未公表である。新薬は有効性さらに費用対効

「高額療養費制度」で支払う安全性、巢を問われ、い可能な範囲に抑えられるが、ゾルゲンスマは小児難病の公費が助成される。た

や脳脊髄液検査が不可欠である。この費用も高いが、保険適用にするのか。販売額が予想以上になれば、価

## 患者に朗報・制度は試練

従来の症状を和らげる薬ではなく、脳内にたまつて

可能 という。

両社は先に類似の「アテュカスマブ」を開発したが、日本やEUで承認を見送られた。米国では条件付き承

近年は超高額の画期的な薬剤が相次ぐ。代表例は、2歳未満の脊髄性筋萎縮症の遺伝子治療薬「ゾルゲン」で、1回のスマ点滴静注<sup>注</sup>で、ゾルゲンスマ対象の患者は重く、健保連では全組合の拠出金でやり繰りされる。

一般的な薬剤対策では「薬漬け」とも言える過剰投与、重複投与の防止、湿布、保温剤等まで保険を適用する悪習の徹底的な是

みやたけ・ごう NPO法人福祉  
フォーラム・ジャパン副会長、学校  
法人・社会医学技術学院顧問

近年は超高額の画期的な薬剤が相次ぐ。代表例は、25歳未満の脊髄性筋萎縮症の遺伝子治療薬「ゾルゲン」。ヘルニア「ヘルニア点滴静注」で、1回の投与で劇的に効く。値段は1回で約1億6700万円。大企業従業員らの健康保険制度認知障害は数百万人規模

一般的な薬剤対策では「薬漬け」とも言える過剰投与、重複投与の防止、湿布、保湿剤等まで保険を適用する悪習の徹底的な是正、ゼネリック医薬品の普及促進など取り組むべき課題は山積みだ。